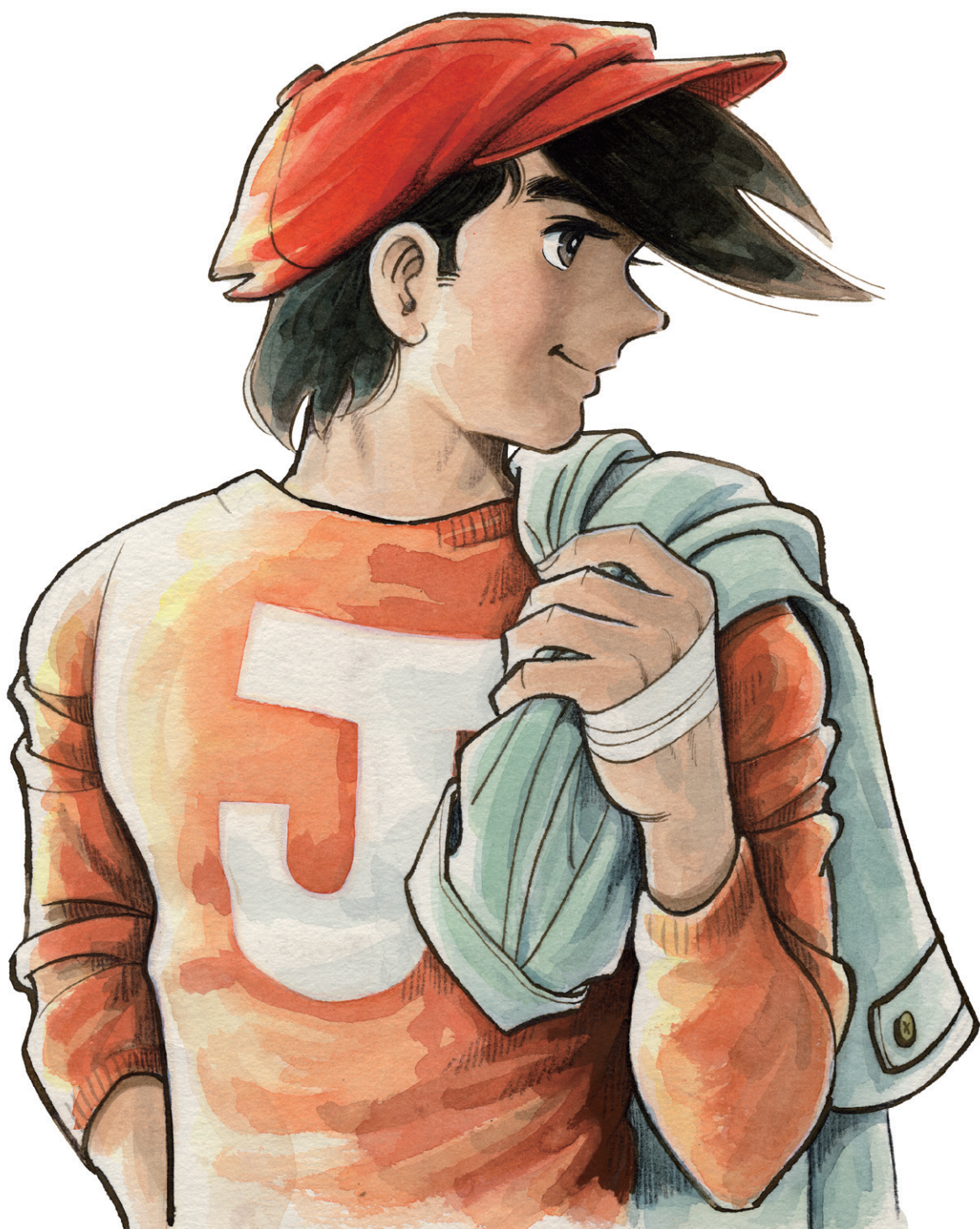
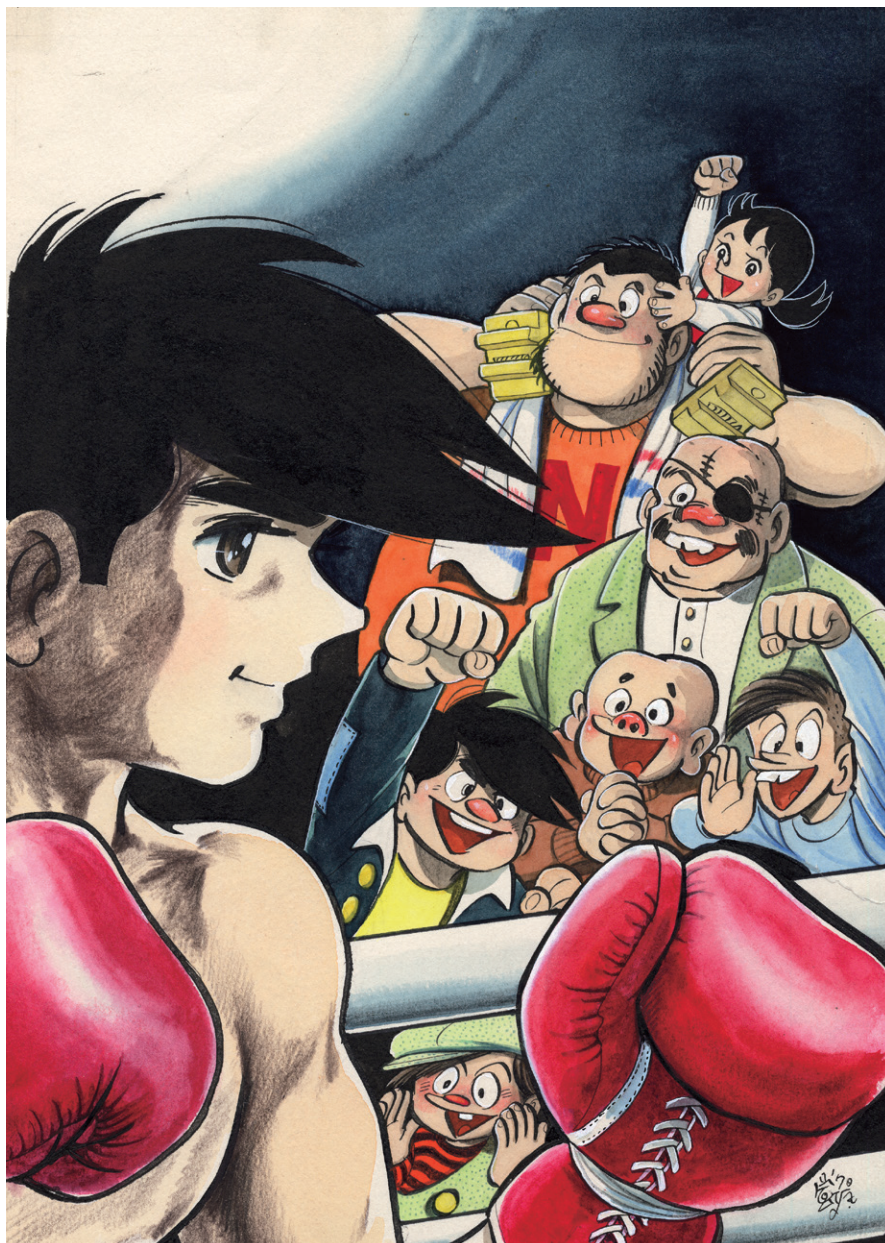


あしたの京都

あなたは再犯防止について
知っていますか？





©高森朝雄・ちばてつや／講談社

「立て！立つんだ、ジョー！」

この名セリフでおなじみ『あしたのジョー』。

主人公の矢吹丈（ジョー）は犯罪に手を染め、警察に逮捕されて少年鑑別所へと送られてしまいます。そんなジョー宛にアルコール依存症の元ボクサー・丹下段平から「あしたのために」の書き出しで始まるハガキが届きます。その内容はボクシング技術の指南でした。段平のアドバイスに従ってジョーはボクシングの練習に身を入れるようになり、やがてリングで大健闘するというストーリー。本人の意志と周りの応援によって立ち直った姿が生き生きと描かれています。

本冊子は、罪を償った人が、さまざまな人の支援や協力を得ながら立ち直っていく姿や、更生支援に携わる方のインタビュー等を通じて、市民の皆様にも再犯防止・更生支援の必要性を感じてもらうことを目的に作成しました。

※本冊子に掲載されている所属や職名等は取材時点のものです。



三者座談会

更生に向けた立ち直り支援

京都に、少年院や刑務所から出院、出所した青年たちの立ち直りを支援している起業家があります。支援する青年のひとりを、ある経営者に引き合わせたところ、青年はその会社に就職することに。

青年はなぜ犯罪に至り、更生に向けてどのような支援を受けたのか。支援した起業家、当事者の青年、雇用した経営者の3人で語り合っていました。

支援者 株式会社MIYACO
代表取締役 中馬一登氏

当事者 ユウスケ氏(仮名)

雇用主 株式会社靴商店インターナショナル
代表取締役 酒井ヒロアキ氏

支援者との運命的な出会い

中馬 私は2014年に二人の弟とベンチャー企業(株式会社MIYACO)を立ち上げました。京都を拠点に、まちづくりに向けた若者コミュニティの形成や地域創生事業、そして教育創生事業など、幅広い事業を手がけています。私の友人の一人が児童養護施設の出身という縁もあり、児童養護施設でボランティアをしていた経緯から、子どもたちのキャリア形成を行いたいとずっと考えてきました。その後、京都市とさまざまな活動で連携する中で、京都市が再犯防止に取り組んでいることを知りました。なかでも、少年院や刑務所から出た若年層へのサポートに興味を持つようになりました。調べてみると、日本には、少年など若年層への教育も含めた更生支援を行っている企業はほとんどありませんでした。これは、私たちが挑むべき新規開拓分野だと思いました。以来、若年層への更生支援に乗り出し、約2年半が経ちます。ユウスケ君と出会ってからはもう2年になるね。まず、つらいかもしれないけど、自分の

経歴について話してもらえるかな。

ユウスケ 僕の父親はとても厳しい人で、小さい頃から、バットで殴られたり、首を絞められたりといった虐待を受けて育ちました。両親は僕が小学校4年生の時に離婚し、それからは父と弟と暮らしていました。16歳のとき、虐待を受け続ける生活を終わらせたくて、自宅のカーテンに火をつけて自殺を図りましたが、未遂に終わり、放火として逮捕されました。結果として試験観察という処分となり、一旦は父親の元に戻ったのですが、父からの暴力は増えていきました。父には怖くてやり返せないため、父の車を叩く蹴るなどしたところ、器物損壊罪で父に訴えられ、少年院に入ることになりました。少年院に入院中、面会に来てくれた母と話す中で大学に進学することを決意し、少年院入院中に高卒認定資格を取得しました。母からは出院後、大学の入学金を援助してもらおう約束をしていましたが、出院して母の元へ戻ったら、母から「そんな約束はしていない」と言われました。そこで母と口論になり、父からの虐



ユウスケ君を支援してきた中馬さん

待の話に。母から「父親の暴力は虐待ではなく“しつけ”だった」と言われたことで、感情が爆発してしまい、母にコップの水をかけてしまいました。それが暴行罪となり再び少年院に入ることになりました。それが19歳のときでした。

中馬 家庭では非常に苦しい想いをしていたんだね。少年院での生活はどうだった？

ユウスケ 入る前は怖いイメージがあったのですが、僕にとっては父の暴力で命の危険を感じずに暮らせる環境で、平和を実感できました。他の在所者たちは、おとなしい人ばかりで、みな、自身の罪と向き合っていました。指導してくれた先生も、優しく親身に僕の悩みを聞いてくれました。

中馬 2度目の少年院を出た後、更生保護施設で暮らしていたね。その時の思い出を教えて。

ユウスケ 母親との関係修復のため、更生保護施設の施設長、保護観察官、そして母を交えた話し合いの機会を設けていただきました。それまで、そういう機会はありませんでした。母との話し合いの中で、僕のSOSの出し方が間違っていたということに気が付きました。それ以降、小さなことでも他人に助けを求められるようになったと思います。更生保護施設で半年程を過ごしてから、一人暮らしを開始しました。その年の12月に更生保護施設のクリスマスパーティーに顔を出したとき、中馬社長に会いました。起業家として楽しく仕事されている姿を見て、「こんなにカッコイイ大人が世の中にいるのか？」と本気で思いましたよ。

中馬 クリスマスパーティーのことはよく覚えているよ。当時、私は支援を必要とする若者たちとの出会いを求め、更生保護施設にアプローチをしていた頃でした。ユウスケ君がいた更生保護施設の施設長から、若い入所者やOBの支援をしてほしいと言われ、OBはクリスマスパーティーに訪ねてくるので、その時にぜひ話してみしてほしいと頼まれてお邪魔したんです。そこには大学生のボランティアも何人かいたけれど、ユウスケ君は学生たちとまったく雰囲気が変わらず、話してみると、すごく聡明だったので驚きました。

ユウスケ つらい少年時代を過ごす中でも、家庭内の状況を何とかしたいと思っていて、希望を求めて、ベンチャー企業や経

営に興味を持ちました。僕は中学生の頃から、経営の本やベンチャー企業のプレスリリースなどをよく読んでいて、いつかはベンチャー企業の経営者と話をしてみたいと夢見ていました。そして、中馬社長に出会えた…僕にしたら「夢が叶った」「生きていて良かった」という気分でした。

さまざまな大人たちに接して

ユウスケ 中馬社長に出会ってから、(株)MIYACOが関わるイベントには必ず呼んでくださったり、さまざまな企業の方との会食にも同席させてくださいました。(株)MIYACOのプロジェクトもお手伝いさせてもらえて、毎日が夢のようでした。

中馬 まあたまに、厳しいことを言うこともありましたが(笑)

ユウスケ 中馬社長から、「少年院に入っていた」ということを言い訳にははいけない、と言われたことを覚えています。

中馬 「少年院に入っていた」ということを知ると、ユウスケ君のことを腫れ物のように扱ったり、特別に見られたり、必要以上に優しく接するという人もいるかもしれません。けれど、社会はそんな優しさに頼ってられるほど、生易しいものでもありません。ユウスケ君はまだ若いのだし、これからの人生、過去を引きずって歩む必要はないと思います。20代前半は、いろいろな事をインプットし、それと同じくらいアウトプットしていく機会を持たなければいけません。そのために私は、ユウスケ君がいろいろな大人に出会う必要があると思いました。

ユウスケ (株)MIYACOの社員の皆さん、取引先の経営者の皆さん…いろいろな仕事をされている方々と出会えて、本当に勉強になりました。誰もが、本気で仕事を楽しんでいる人ばかりでした。

中馬 そして、その中でユウスケ君を酒井社長に会わせることになるのですが、酒井社長はユウスケ君と初対面したときの印象はいかがでしたか？

酒井 第一印象は、とても目がキラキラしているということでした。また、清潔感があるのも印象的で、話してみるとかなりの読書家でいろんなことを知っている。経営論などについて話をしたことをよく覚えています。



「そのままじゃカッコ良くないよ」

中馬 その後、酒井社長とユウスケ君と3人で定期的に食事をするようになって…酒井社長、ユウスケ君を会社に誘われたときのことを覚えていらっしゃいますか？

酒井 酔っぱらっていたので覚えていません(笑)

ユウスケ 僕は覚えています。その頃、僕はまだ中馬社長の傍にいただけで、まだちゃんと仕事に就いてはいませんでした。そんな僕に酒井社長が「ユウスケ君、そのままじゃカッコ良くないよ」と言ってくださったんです。「どこかに落ち着いて職を定め、決まった時間に働いてみたほうがいい。君には選択肢がたくさんあるが、何かを選ぶことを恐れている。今、自分の前に立ちだかっている怖さを乗り越えないと、一人前にはなれないよ」と。

酒井 そうだった。その話の中で「よかったらうちの会社で働かないか」とユウスケ君に言ってみたんです。当社では採用する際、前歴等は全く問いません。そういうことは採用の基準にしていない。そんな会社なので、彼が働きやすいのではないかとも思いました。

ユウスケ 僕もその瞬間「このままじゃいけない、覚悟を決めなければ」と思い、その場で酒井社長に「よろしくお願いします。お世話になります」とお願いしました。

仕事にやりがいを感じて

中馬 こうしてユウスケ君は2023年の4月に入社したわけですが、今はどんな仕事をしているの？

ユウスケ 今は(株)靴商店インターナショナルのマーケティング担当として、会社のインスタグラム管理や配信動画の作成を行っています。もともと趣味で動画を制作・編集していて、技術は独学で学びました。今はもっとクオリティを高められるよう、試行錯誤しています。

酒井 ユウスケ君は周りからすごく期待されていて、頼りにされている。新しいことを覚えるのも熱心ですよ。彼自身も、「結果を出したい」と思っている。すでに当社規定の表彰も受けており、仕事を楽しんでいるのが伝わってきます。ただ、知識は豊富だけど、実績はまだまだこれから。初めての社会人経験でプレッシャーもあるだろうし、いろいろ葛藤もあるようです。いつも悩みを聞きながら、激励しています。

ユウスケ 中馬社長からもずっと「アウトプットの機会を増やせ」と言われてきました。今はその実践の場を与えられ、毎日が充実しています。日々マーケティングを勉強中です。

偏見を解くために必要なこと

中馬 ユウスケ君は私や酒井社長に会い、居場所を得ましたが、更生を目指す人々にとって必要なのは「住居」、そして「仕事」です。私の印象ですが、刑務所等を出所した後、すぐ



ユウスケ君を雇用した酒井さん

に仕事に就こうと思うと、世の中の人ややりたがらない仕事をするしかなかったりします。そうなると、彼らが手にする仕事は、「彼らのやりたい仕事」ではないのではないかと思います。そして、例えば、仕事内容や給与、待遇に不満があっても、彼らは「自分が刑務所や少年院に入るようなことをしたんだから、仕方がない」と思いながら働いています。これは不健全だと思います。罪を償って再出発しようとしている彼らが、本当にやりがいを感じて働ける仕事を得られる…そのためには、社会全体の意識の変化が必要なのではないでしょうか。今の世の中では、酒井社長のような人が必要とされていると思います。

酒井 いや、私もまだまだ至らないところがあります。経営者には愛情が必要だと思っていますが、私の社員に対する愛情はまだまだ足りていないと思っています。

ユウスケ 酒井社長からは僕を含め、社員への強い愛情を感じます。親から受けたことのないような愛情を与えてくれる、そんな人に出会えたことは、奇跡としか思えません。

中馬 罪を犯してしまう人々の中には、幼い頃に本来は親などから受けるべきだった愛情を与えられずに育っている人々が多いと思います。その代わりにはなりませんが、支援者や雇用者が愛情をもって接すれば、再犯に至る負のループを断ち切ることができると思います。世間の皆さんが思われているほど、罪を犯した人々は悪い人々ではありません。生まれつきの悪人なんていないと思います。犯罪の背景には、恵まれなない生育環境や社会構造の歪みがあることが多い。だから彼らが犯した罪だけではなく、それに至る過程、そしてその後歩もうとしている人生を見てほしいです。そうすることで、偏見は解けていくと思います。

ユウスケ 少年院に入る前、僕は自殺を試みました。だから今の僕は、なかったはずの人生を歩んでいるんだと思っています。「自分はなんのために生まれてきたのか？」…それを考えられる人生をここまで支えてくれた、中馬社長と酒井社長に恩返しができるように。日々勉強をつづけながら、一日一日を積み重ねていきたいと思っています。

京都市内の検挙者数は減っていますが、決してゼロになったわけではありません

京都市 刑法犯・特別法犯の検挙者数
(市内警察署で検挙された者)

※検挙とは、警察等が被疑者(罪を犯したと疑われている人)を特定して取り調べることを検挙された被疑者のことを検挙者という。

平成22年(2010年)

6,367件



令和4年(2022年)

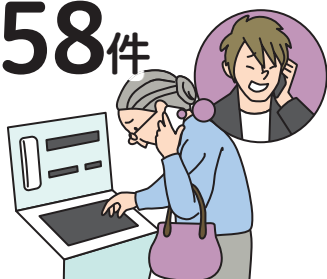
2,941件

京都市と京都府警察をはじめとする関係機関や市民が連携して、さまざまな取組を進めてきた結果、京都市内の検挙者数は大幅に減少!

知能犯

詐欺、横領、偽造罪など

158件



粗暴犯 暴行、傷害、脅迫など

460件



窃盗

万引きや空き巣、自転車の窃盗など

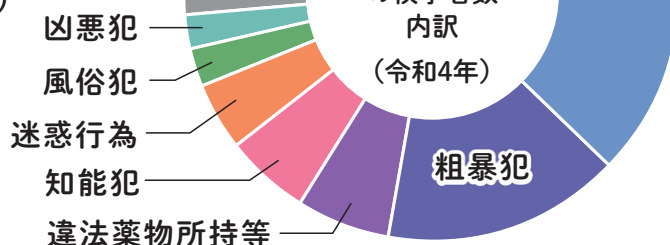
1,097件



迷惑行為

卑わいな行為、不当な客引、つきまといなど

132件(※1)



違法薬物所持等

麻薬・大麻・覚醒剤等の所持や売買、使用など

182件(※2)



風俗犯

賭博、公然わいせつ、強制わいせつなど

74件



凶悪犯 強盗、殺人、放火など

69件



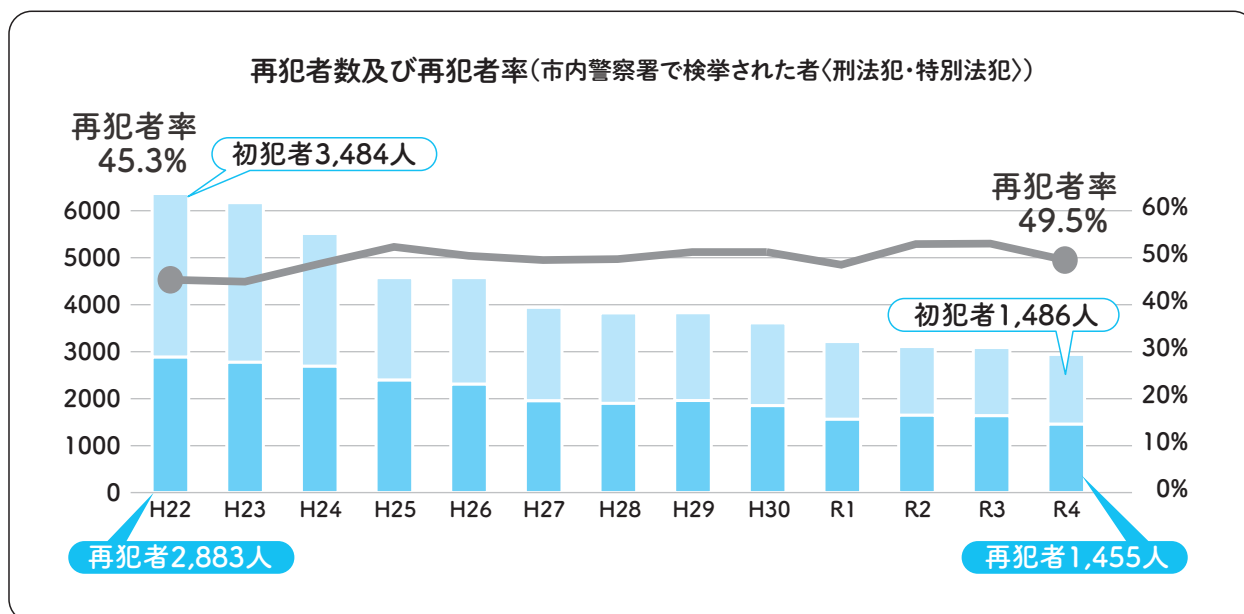
その他

769件

※1:迷惑防止条例、ストーカー行為等の規制等に関する法律の検挙者数

※2:麻薬及び向精神薬取締法、大麻取締法、覚醒剤取締法の検挙者数

また、検挙された者のうち、再び罪を犯した者の割合である「再犯者率」は50%前後で推移



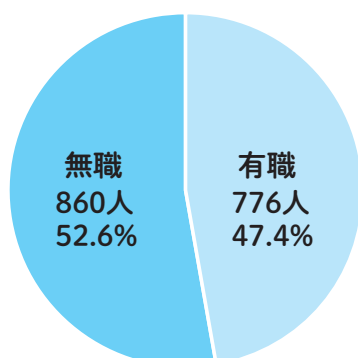
再犯が起こるのはなぜ？

犯罪・非行をした人の中には、罪を償い社会で更生しようとしても、安定した住居や仕事がない、薬物依存があるなどの生きづらさを抱えていたり、偏見・差別意識から社会で孤立したりして、犯罪・非行を繰り返してしまう人がいます。

再犯につながりやすい要因

① 仕事が見つからない

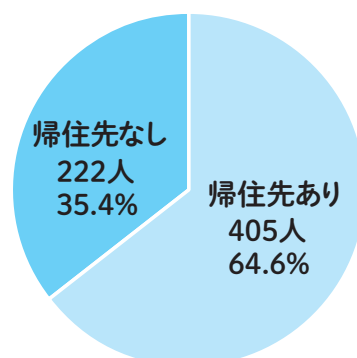
本市における再犯者(刑法犯・特別法犯検挙者)に占める無職の人の割合は約5割と高い状況にあります。



再犯者(刑法犯・特別法犯検挙者)に占める無職の割合(京都市、令和3年)

② 住むところがない

京都刑務所など府内の刑事施設を出所した人のうち、4割弱の人が出所時に適切な帰住先を確保できずに出所しています。



刑事施設出所時に帰住先がない人の割合(京都府内の刑事施設、令和3年)

③ 孤立している

悩みや困っていることを相談する人がいない

誰にも受け入れてもらえない

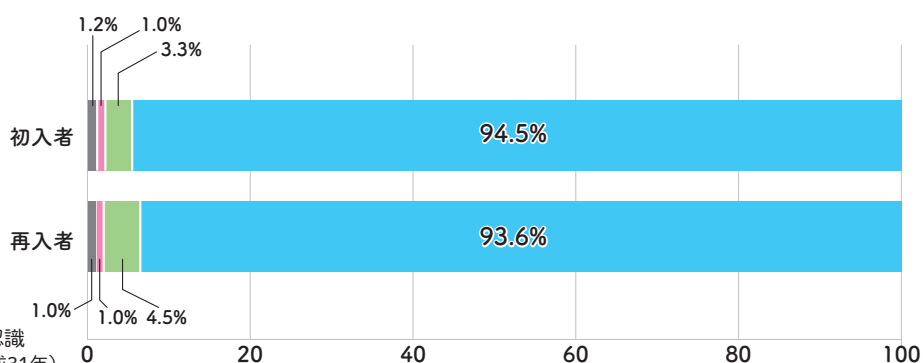


刑事施設に入所した受刑者のうち ほとんどの人が 「立ち直りたい」と思っています

もう二度と罪を犯したくないと
思っている

- あてはまらない
- どちらかといえばあてはまらない
- どちらかといえばあてはまる
- あてはまる

出典元：初入者・再入者別 再犯に関する認識
(法務総合研究所「研究部報告59」、平成31年)



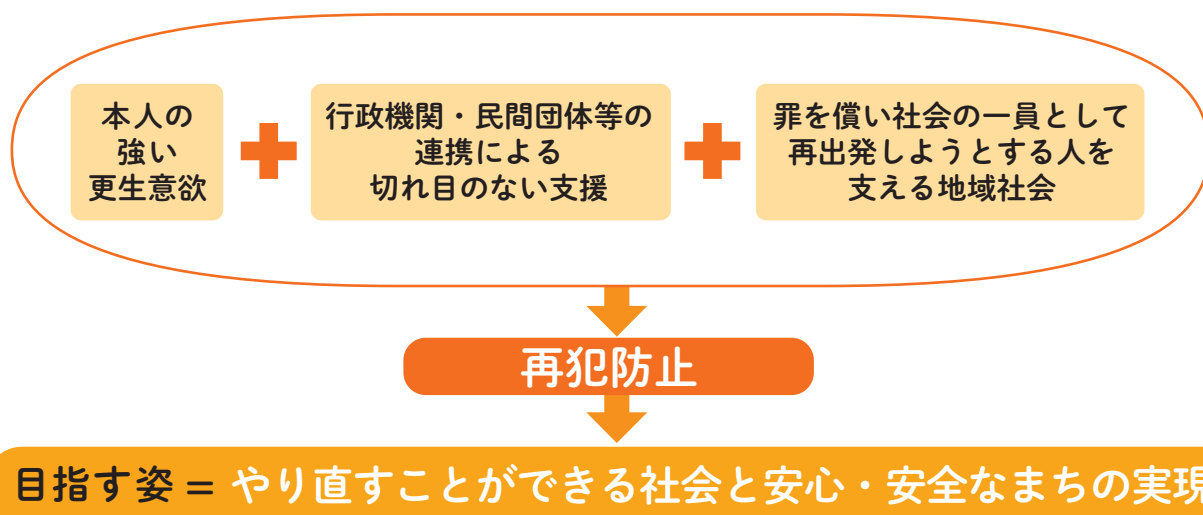
再犯に陥る負のサイクル



再犯が起こらないようにするには、 私たちのサポートが欠かせません

再犯防止にあたっては、犯罪等をした人自身の強い更生意欲を前提に、社会復帰後に地域社会で孤立させない切れ目のない支援が必要です。

また、罪を償い社会の一員として再出発しようとする人を認め、支えることができる社会に向けた取組も欠かせません。



立ち直りをサポート!



再犯防止の取組は、保護司、協力雇用主、更生保護施設等の協力者により支えられています。
さまざまな立場から更生を目指す人を見守り、更生を支援する活動に御理解・御協力をお願いします。

保護司

保護司とは、犯罪や非行をした人たちが再び罪を犯すことがないように、その立ち直りを地域で支える民間のボランティアです。法務大臣からの委嘱を受け、全国で約4万7000人が保護司として活動しています。

Interview

右京区の保護司にインタビュー

右京区で長らく出所者・出院者を見守り、支え続けてきたベテラン保護司の細野夏子さん。
保護司の活動内容や更生にかけける想いをお伺いしました。



—保護司の活動について教えてください。

まず担当になった対象者(刑務所や少年院などの矯正施設に収容されている人等)に関する生い立ちなどのプロフィール資料を読み込みます。そして、対象者のご家族等の身元引き受け人に何度かお会いするなどして、お話を伺い、仮釈放後の帰住環境を調査したり、生活環境を整えていきます。仮釈放後は定期的に、出所後の生活やさまざまな悩み事などについて、対象者からお話を聴き、スムーズに社会生活が行えるように支援します。

—保護司になられたきっかけは何でしたか?

私は長らく地域のボランティア活動に携わっていたのですが、こうした活動を通して知り合った保護司の方に強く勧められたのがきっかけです。「人に寄り添って、話を聴くだけでいい」「あなたならお母さんのように語りかけられる」と熱心に語られたことから、やってみようという気になりました。そうして私が保護司になったのは1995年のことですから、もう30年近くになりますね。

私は対象者との面談を自宅で行うので、家族の理解は不可欠ですね。私の家族はとても協力的で、保護司の活動を支えています。

—対象者にはどんな人が多いですか?

刑事事件を起こした人から交通事故関連で保護観察処分になっているといった人まで、性別に関わりなく年齢もさまざまです。私の場合は、少年や女性の対象者が多いです。

ね。少年たち一人ひとり、みんな可愛くていい子なんです。だから話をするときも高圧的にならないように普通に話しています。私にも娘がいるので、女の子と話すときは「そのネイル派手ちゃう?」とか日常的な話題から入っていきます。近所のおばちゃんみたいな感じで(笑)

—印象に残っているエピソードはありますか?

少年院から出院してきた子で、出院後すぐの頃は、面談時に椅子の上で胡坐をかいているような子がいました。その後、彼は働き始めたのですが、しばらくして、彼のお母さんが「息子がすごく変わった」とおっしゃるのですね。彼は、家に帰ると、職場の上司のことを生き生きと語るようになったそうです。上司が仕事のことを教えてくれたり、気軽に声をかけてくれたり、いつも気にかけてくれていると。そうして上司のもとで仕事を覚えるのが、彼にとって楽しくて仕方なかったようでした。そして年末に彼と面談したとき、別れ際に「良いお年を」と言ったら、なんと正座して床に手をついて「先生、ありがとうございました」と言ってくれたんです。あの時は本当にうれしかったですね。職場など身近な場所で、誰か自分の話を聴いてくれる大人がいること。少年・少女の更生にはそれが重要です。誰かが自分を心配してくれている…そう思うだけで、安心できるのです。

—対象者たちはどんなことに悩んでいますか?

周囲から偏見の目で見られ、悪い噂を立てられること。何かトラブルがあったときには、すぐに犯人扱いされて

しまうといったこともあります。だから私は対象者に対して「絶対に自分からトラブルに近づかないように」と口を酸っぱくして言います。しかし一方で、すでに罪を償ってきた人々が寛容に受け入れられる社会であってほしいとも思っています。

―対象者を支えるために地域社会ができることは？

私たち保護司は相談活動や見守り活動に加えて、更生保護施設に入所している人々と楽しむ季節のイベントを催しています。夏は浴衣で大文字の送り火を見たり、冬はクリスマスパーティーをしたり…彼、彼女らは家庭環境に問題があり、家族と行事やイベントを楽しんだ経験がない人が多いので、「こんなことはじめて！」と本当にうれしそうにしてくれます。そんなふうに、地域の人々とともに何かを楽しみながら、その温かさにもふれる機会が増えればいいですね。

―保護司をしていて良かったと思うことは？

保護司は大変な活動ですが、更生を果たした人たちから逆にする気をもらうことがあります。地元小学校の入学式の日

に交通安全ボランティアをしていると、学校の門から家族連れで出てきた男性に「先生！」と声をかけられました。それは、かつて私が担当した男性でした。私は担当が終われば、街で見かけても自分から元対象者に声をかけることはしません。過去に保護司に世話になったことを知られてはいけませんので。でもその男性は、奥さんとお子さんに「とても世話になった人だ」とうれしそうに私を紹介してくれました。この活動を続けていて本当に良かったと思いましたね。

―市民の皆様メッセージをお願いします。

まず、出所・出院した人々を「特別な人」として見ないで、偏見を持たずに接してほしいと思います。あと、特に子どもたちに対してもっと関心を持ってください。何か事件が起こると、近隣住民へのインタビューで「こんな事がいつかは起こると思っていた」みたいなコメントがニュースで流れますが、「何か起こる」前に、もっと周りの人は何かできたはず。無関心にならず、常に身の回りの人々、子どもたちを気にかけてください。

保護司にご興味がある方は、京都保護観察所（075-441-5141）までお問い合わせください。

～更生保護ボランティア団体をご紹介～

京都府更生保護女性連盟

更生保護女性連盟は、更生保護に協力するボランティア団体で、全国各地で約18万人の会員が活動しています。

みんなが住みよい明るい社会を実現するために、更生保護施設での夕食づくり・地域の子育て支援などを行っています。資格はいらず、ちょっとした優しい気持ちで、誰でも参加できます。

▶ご興味がある方は、京都保護観察所(075-441-5141)まで。



◀京都刑務所の矯正展にブース出展

▼更生保護施設にて茶道教室と小物づくり教室を開催



京都BBS連盟

京都府で活動する京都BBS連盟では、大学生が中心となり、児童自立支援施設等を訪問し、学習補助やスポーツを行ったり、家庭裁判所と連携して少年と清掃活動を行ったりするなど、同世代の「お兄さん」「お姉さん」として少年と関わっています。

▶ご興味がある方は、京都BBS連盟のメールアドレス(kyotobbbs@gmail.com)まで。



◀新人研修会でのグループワーク



▶薬物乱用防止教室
(保護司会と共同開催)



協力雇用主

協力雇用主とは、犯罪や非行をした人の自立及び社会復帰に協力することを目的として、犯罪や非行をした人を雇用し、又は雇用しようとする事業主の方々です。

Interview

株式会社大槻シール印刷の会長にインタビュー

協力雇用主の株式会社大槻シール印刷は、シールを中心にラベル・チラシ・パンフレットなどの印刷を手掛ける南区の企業です。保護司としても活動されている、同社会長の大槻裕樹さんに協力雇用主としての役割や思いについてお伺いしました。



―協力雇用主を始められたきっかけをお聞かせください。

13年前から保護司として、少年院を出院したり刑務所を出所したりした人々のサポートを続けています。こうした人々は、新しい仕事を見つけることが難しい状況にあります。ならば保護司である私の会社で彼らを受け入れようと思ったことが協力雇用主を始めた経緯です。

―雇用主となるにあたり、社内で配慮されたことは?

もともと当社は身体や精神に障害のある人々を積極的に雇用してきたので、出院・出所者を雇用するにあたって、特

に従業員に対して配慮したことはないですね。ただ、彼らがどのような罪を犯したのかということは、ちゃんと従業員に説明しておきます。働く者同士、秘密をつくらないほうがいいのはもちろん、「この人はどんなことに気をつけてあげるべきか」を職場で共有しておく、みんなで出院・出所者を見守るのに役立ちますから。

―出院・出所者を雇用したことで、苦労されたことはありますか?

当人が「朝起きられない」と言うので、母親が起こして会社まで連れてきてくれたこともありました。貸したお金が返ってこないとか。また、挨拶や職場でのマナーなど社会常



識であることが初めはできませんでしたが、それは出社するうちにだんだん身についていきましたね。そんなふうに仕事も含めて、「できること」が増えていくのは本人たちにとってとても良いことだと思います。

また、当社に元からいる従業員たちにとっても、さまざまな人間とともに働くことで、「人は一人ひとり違う」ということに気づく機会になっているのではないのでしょうか。

— 出院・出所者が「働く」ことで得るものは何でしょうか。

自分が働いた対価として、収入を得ることは社会参加への第一歩です。できれば、福祉の恩恵を受ける側から、福祉を支える側の人間になってもらいたい。また定職があれば、部屋探しもラクになります。さらに言うなら、働くことは収入を得るだけではありません。人は働くことで、社会の中の役割を見出し、自分の居場所を見つけることができます。それは、自分自身の誇りにもつながります。自分に誇りがあれば、罪を犯したり人に迷惑をかけたりして自分自身をおとし

めることはできないようになります。自分の中にそうした矜持が生まれ、もう一線を越えなくなり、これが再犯防止につながるのです。

— 経営者・市民の皆様メッセージをお願いします。

出院・出所者を「怖い」と思っておられる経営者の方々も少なくないようですが、私は13年の保護司経験を通して「怖い」と思う人に出会ったことはありません。そうした偏見で、将来的に企業の戦力になり得る優秀な人材を見逃すのは、企業にとって実にもったいないことです。社会で彼らとともに暮らすわたしたちの役割は、彼らを「ゆるす」ことではないのでしょうか。「ゆるす」がないと、前に進むことはできません。市民の皆様にもお願いしたいのですが、罪を償い再出発しようとする人を「ゆるす」ことから、「活かす」ことにつなげていくことの大切さを再犯防止のためにも理解していただきたいと思います。

協力雇用主の負担を軽減する制度があります。詳しくは右記の二次元コードからご覧ください。



特殊詐欺に関わるアルバイトは犯罪になります！

特殊詐欺に関わるアルバイトはインターネットやSNSで募集されています。単にアルバイトと思って応募してしまうと、特殊詐欺に加担することになり、犯罪者となってしまいます。

【特殊詐欺に関わるアルバイト例】

受け子／出し子

被害者から現金やキャッシュカードを受け取る「受け子」やATMで他人の口座から現金を引き出す「出し子」になる。



詐欺罪

銀行口座の売買／受け取り

自分名義の銀行口座を他人に渡したり、他人名義の口座を受け取る。



犯罪収益移転
防止法違反

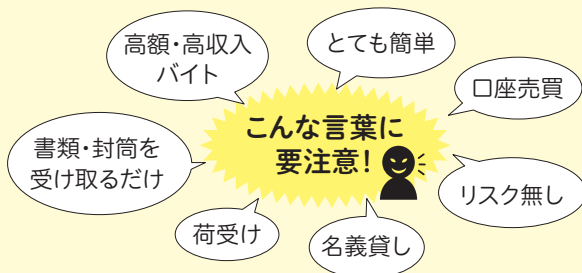
携帯電話の売買／受け取り

自分名義の携帯電話を渡したり、他人の携帯電話を受け取る。



携帯電話不正利用
防止法違反

～特殊詐欺に関わらないために～



疑 う

怪しいアルバイトがあったら、まずは疑ってみましょう。簡単に大金を稼げるアルバイトはありません。

調べる

もしかしたら割の良いアルバイトがあるかもしれません。しかし少しでも怪しいと思ったら、ネットで調べてみましょう。

相談する

友人や家族、先輩など周りの人に相談してみましょう。一人で決めない、悩まないが鉄則です。

《参考》特殊詐欺加害防止 特設サイト(東京都)



更生保護施設

更生保護施設とは、矯正施設から釈放された人や保護観察中の人で、身寄りがいないことや、現在住んでいるところでは更生が妨げられるおそれがあるなどの理由で、直ちに自立更生することが困難な人たちに対して、一定期間、宿泊場所や食事を提供する民間の施設です。



▲京都市中京区にある更生保護施設「盟親」

Interview

「盟親」の施設長にインタビュー

更生保護施設「盟親」の施設長である松平正守さんに、更生保護施設の生活や入居者へのサポート、そして更生への想いについてお話を伺いました。



—更生保護施設「盟親」はどんな施設でしょうか？

更生保護施設とは、刑務所を仮釈放になった人のうち、頼ることのできる人がいなかったり、生活環境に恵まれない方等を主に受け入れている施設であり、全国に103施設あります。当施設は40名定員の男性専用施設で、入居率は現在8割～9割。当施設の歴史は長く、明治22年に刑務所出所者を受け入れた「京都感化保護院」を始まりとします。

—ここではどのような人が、どんな生活をされていますか？

現在は18歳から71歳までの幅広い年代の人々が「寮生」として入居しています。彼らのほとんどが当施設で生活しながら、主に協力雇用主さんのもとで働いています。寮生には居室を用意し、朝・昼・晩3食を提供。身の回りの生活用品や衣類、医療費や健康保険料、求職活動費、交通費などはすべて寮生の負担です。



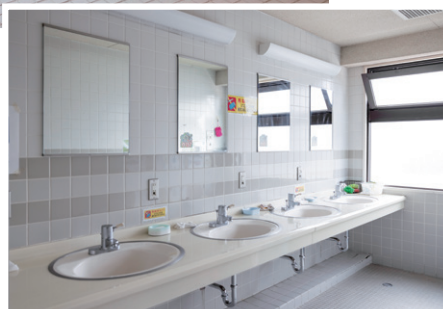
▲食堂では温かい料理が提供される



▲▶浴場と洗面台は寮生が当番制で掃除



▲居室は完全個室



―寮生にはどんな生活サポートをしていますか？

まず、協力雇用主等への求職活動をサポートします。病気を抱えた人には、就労の前に病院を探して同行することもありますし、住民票の異動等の手続きに同行することもありますね。また、働いて得たお金の管理や、これまでのライフスタイルの見直しなど、将来の自立を見据えて全面的に手助けします。さらに寮生同士がグループディスカッションを行う社会生活技能訓練(SST)や、OBの体験発表、薬物依存症者向けセッション、断酒会、医療関係者による相談、大学の先生を招いた福祉制度の講座など、さまざまなサポートを行っています。

―「更生」に向けての想いを聞かせてください。

当施設では、入所する際、寮生に実社会への復帰の挨拶として「おかえりなさい」と出迎えます。そして、それぞれの職場に出かける寮生たちを「いってらっしゃい」と見送ります。職場で寮生たちは「罪を犯した者」というレッテルを貼られ、偏見の目に苦しむこともあります。寮生たちの中には、恵まれない家庭環境でつらい思いをしてきた人もいますし、長い懲役生活で、社会の変化についていけない人もいます。だから私たちは「困ったときには相談できる人がいる」と思ってもらえる存在でありたいですね。この施設にもルールや規則はありますが、私たちの考え方や生活規範、行動方針を押し付けることはしません。それでは反発を招いてしまいます。一人ひとりに寄り添って、変わろうとする彼らの後押しをしたいと考えています。

―地域社会とはどのように連携されていますか？

まだ仕事が決まっていない寮生たちと、地域貢献活動として毎週、近隣清掃をしています。そんな寮生たちを見て「こんにちは」「ごろうさま」と声をかけてくださる地域の方々もおられます。寮生のなかには生まれて初めて他人から感



▲地域の清掃活動

謝の言葉をかけてもらったことで、感激する人も。こうした経験は、人の役に立つことや感謝される喜びを知り、再犯防止につながります。また寮生が、「自分も市民である」という自覚を得るための大切な一歩です。

―施設を退所した寮生とのつながりはありますか。

多くの寮生が4カ月ほどでこの施設を退所して新しい生活を始めます。就職が決まって、それがうれしくて私たちに電話を入れてくれたとき。退所時に「感謝しています」と涙を流してくれたとき。数年後、我が子を見せに訪れてくれたとき…私たち職員もそんな寮生たちに毎日感動させられています。退所後もたまに当施設を訪れ、生活のことなどを気軽に相談に来るOBもいます。また、季節ごとに夏まつりやクリスマス会などのイベントを開き、OBを招待することもあります。OBは寮生たちを励ましたり、アドバイスを与えたりしていますね。寮生たちにとっても自分のこれからをイメージするための良い機会になっています。



▲京都府更生保護女性連盟にご協力いただく夏まつりやクリスマス会

―市民の皆様メッセージをお願いします。

当施設での生活を通して、市民の皆様の温かい心を知り、やり直そうと心に決めた寮生たちは数知れません。彼らも社会の一員であり、市民です。また、更生保護の活動は犯罪による新たな被害者を生み出さないための活動でもあります。私たちの活動に、さらなるご理解をお願いいたします。



居住支援法人

居住支援法人とは、住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への円滑な入居の促進を図るため、住宅確保要配慮者に対し、家賃債務保証、賃貸住宅への入居等に関する情報の提供・相談、見守りなどの生活支援等を実施する法人です。

Interview

居住支援法人「京都暮らし支援センター」の代表者にインタビュー

京都で住居を得ることが困難な人々を支援している居住支援法人「京都暮らし支援センター」。
取締役社長の北波登さんと、統括部長の土岐美喜子さんにお話を伺いました。

—センターの活動内容を教えてください。

高齢である、障害がある、生活に困窮している、矯正施設出所者であるといったさまざまな事情で、住居を確保することが難しい人々がいます。しかし、新しい生活をスタートさせる拠点として住居は欠かせません。私どもは住居のご提供はもちろん、入居後の生活支援・相談・トラブル対処などのお困りごとにも対応しています。

当センターは「断らない大家」。特に刑務所などの矯正施設から出所した人々は、何かトラブルにつながるのではないかといったことで家主から敬遠され、一般の保証会社の審査が通らないといった人も多く、住居探しにおいて非常に困難な状況にあります。同センターでは関係機関と連携し、センターが所有する物件やサブリースの物件から住居を確保。サブリースは空き家を抱える家主さんにもメリットがあり、好評です。

—サブリース物件とはどのようなものですか？

当方が物件を借り受け、住宅確保要配慮者にお貸しして



室内の様子

います。通常の不動産屋さんを通した賃貸取引と同価格で、リスクは当方負担。仲介手数料はゼロです。空き家でお困りの家主さんはぜひご検討ください。

—入居者にどんなサポートをされていますか？

入居する人々の新たな門出を全般的に支援しています。矯正施設出所者などは家具や食器、家電製品など、何も持っていない方が多い。そういった物を揃えるお手伝いをします。また、日々お部屋の様子を見に行ったり、電球などの消耗品を交換したり、体調を崩して食事を用意できないときには、私たちの家で用意したものを食べてもらったり…土岐統括部長は年長の入居者からも『お母ちゃん』と呼ばれていますよ(笑)。

—矯正施設出所者の受け入れにあたって、どんな準備をされますか？

入居受付にあたっては、関係機関から提供された当事者のプロフィールを事前に読み込み、どんなサポートが必要かを考えます。どんな事情があったのかを知り、彼・彼女らに寄り添うために何が必要か知ることが大切です。

更生の道を歩んでいる人々には、社会の役に立ちたいと



北波社長（左）と土岐統括部長



入居者が自由に使えるサービス農園

願っている人も少なからずいます。『居場所』(住居)と同時に、何らかの『出番』(自分の役割)が必要なんですね。私たちは、彼・彼女らがもう決して再犯はしないと信じています。時にはこちらが頼りにして、アパートの整備などの手伝いをしてもらいます。こちらが感謝したくなることもたびたびありますよ。

一市民の皆様伝えたいことはありますか？

これまで当センターは大勢の入居者を支え、そして立ち直ろうとする一人ひとりの姿に、私たちが支えられてきました。

た。大切なのは、社会から孤立を無くすことです。社会的に孤立している人々に手を伸ばすために必要なのは、私たち一人ひとりが身近な問題を気にかけることです。

皆さんの周りにも、さまざまな問題で困っている人はいるはずです。たとえばバスや電車で小さな子どもを連れて苦労されているお母さんがいたら、優しく声をかけてあげてください。そんなふうに『おせっかい』と思わずに手を差し伸べるのが、世の中を暮らしやすくするための第一歩ではないでしょうか。



管理している物件

高齢者の罪種 およそ7割が窃盗！？

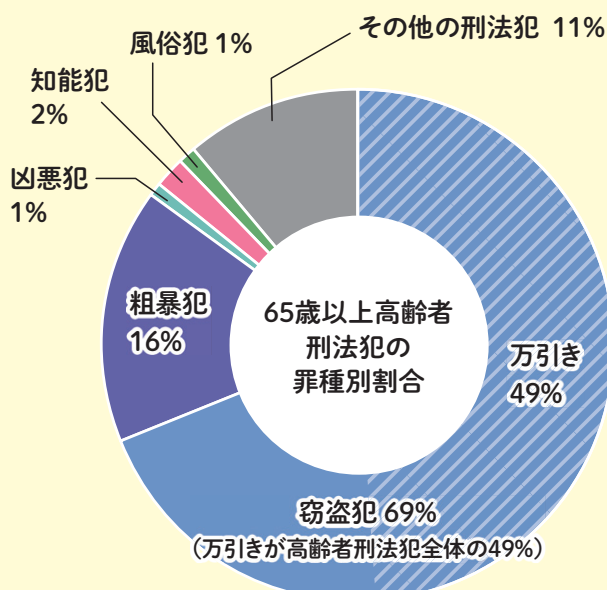
日本全体で進む高齢化。

今、全国の刑務所でも、新受刑者のうち65歳以上の者の割合が年々増加傾向にあり、受刑者の高齢化が課題となっています。

高齢者の刑法犯の罪種別割合のうち、最も高いのは窃盗罪であり、そのうちのほとんどが万引きです。

高齢者の万引き行為の背景は若年層から中年層までのそれとは異なる場合が多く、多分に孤独感や生活苦がきっかけとなっているといわれています。

私たちにできることとして、何気ない日々の声かけや関わりが、再犯を防止する一助になるのではないのでしょうか。



出典元: 令和4年の刑法犯に関する統計資料(警察庁)



回復支援施設

回復支援施設とは、依存症の当事者が主体となり、グループミーティングを中心とした取組を行うなどして、依存症からの回復を目指す施設です。

Interview

NPO法人京都MACの所長にインタビュー

京都でさまざまな依存症に悩む人々の回復と自立を目指すNPO法人京都MAC所長の楳原節子さんに、お話を伺いました。

—活動内容について教えてください。

NPO法人京都MAC(マック)は依存症からの回復のためのリハビリを主に行っています。京都では平成2年の開設以来、アルコール、ギャンブル、薬物などの依存症や摂食障害、近年ではゲーム障害などさまざまな依存・障害に悩む人々の回復に向けた生活訓練を行っています。当方は年間約200人の相談者と1日平均24名の方が利用されています。

—MACを訪れた人はどんな支援を受けられますか？

まずはサポートセンター(指定特定相談支援事業所)で治療・回復に向けた相談を受け付けます。ここで障害福祉サービスの申請などを説明し、今後の支援方針を決定。遠方在住で通所が困難な人、居住地の近くに専門の自助グループがない人などに向けては、宿泊型自立訓練施設「にこ

にこハウス」や女性ハウスDMLを紹介し、通所できる人には、アディクションセンター(生活訓練施設)を勧めます。

—利用者はここでどんなことをされていますか？

集団で各人の悩みや体験を語り合うグループミーティングが行われます。それぞれの依存症に苦しむ人々がグループで対話を重ね、ありのままの自分を認めることで回復につながっていきます。このミーティングを中心にスポーツや遠足、社会見学、ヨガ、音楽などのレクリエーションなども行っています。また毎日、施設内のキッチンで利用者たちが当番で食事を用意し、一緒に食べるといったこともしています。

—MACで働いている人はどんな人たちですか？

スタッフの半数はそれぞれが何らかの依存症から回復した人々。回復者は依存症で苦しんでいる人の気持ちがわかるので、かつての自分の悩みや回復経験を分かち合いながら、利用者を支えているのです。残りの半数は社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・認定心理士などの専門職で、回復者たちがカバーしきれない部分をサポートしています。

—依存症の人々はどんなことで苦しんでいますか？

違法薬物への依存はそれ自体が犯罪です。その他の依存症も犯罪のきっかけになることはあります。ただ、依存症と犯罪とを安易に結び付けてレッテルを貼られると、社会生活に復帰することが難しくなります。一方、かつて依存症



1階の交流スペース

は心の弱さの結果であるかのような偏見を持たれていました。それが病気であるという認識が広まったことから社会も大きく変わり、治療や回復に向けての取組も大きく進歩したと思います。

—市民の皆様を知ってほしいことは何でしょうか。

依存症から回復しようと必死で努力する人々の姿をもっと知ってほしいと思います。京都MACのスタッフや仲間と出会い、支援を受けながら回復・自立生活に復帰した人々は数知れません。彼・彼女らは誰もが、人と人とのつながりを持てたことが良かったと語ります。

依存症に至るまでに、人はそれぞれ何らかの生きづらさを抱えているもの。仕事や人間関係の悩み、あるいは孤独や孤立などです。これらを解消するためにお互い支え合い、助け合う社会をつくっていくことが大切だと思います。そうすれば、人が何かに過剰に依存して社会生活が破綻するようなことはなくなるのではないのでしょうか。



2 階のキッチン

京都市における再犯防止の取組

平成28年12月に「再犯の防止等の推進に関する法律」が施行され、本市においても令和3年3月に「京都市再犯防止推進計画」を策定しました。

再犯防止の取組は、新たな犯罪被害者を生み出さない取組であるとともに、罪を償い社会の一員として再出発しようとする人を社会全体が認め、支えることで、社会復帰を促進する取組です。

本市では、地域社会に最も身近で、保健医療・福祉などの各種サービスを提供している基礎自治体としての役割を認識しながら、刑務所・拘置所・少年鑑別所・保護観察所等といった国の機関や、当冊子で紹介したようなさまざまな民間協力者と連携を深めながら、再犯防止の支援の輪を広げているところです。

「やり直すことができる社会と安心・安全なまち」の実現に向けて、市民の皆様におかれましては、再犯防止に対するますますのご理解をよろしくお願いいたします。

詳細はホームページをご覧ください。

京都市 再犯防止

検索





令和5年12月発行
 発行：京都市保健福祉局保健福祉部保健福祉総務課
 〒604-8571
 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
 電話番号 075-222-3366 FAX 075-222-3386



SUSTAINABLE
 DEVELOPMENT
 GOALS

京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

京都市印刷物第 053134 号